

「日本常民文化紀要」

【第三十九輯】 2025年3月 発行	
外池 昇	『卯花日記』(文政十二年)にみる神武天皇陵の探索 ——「塚根山」と「白かし尾」——
小池 淳一	「簠簋」神吉日の説話 ——中世末陰陽道における伝承動態——
Jeffrey A. Tolbert	Horror Stories and Popular Representations of Folklore Studies
【第三十八輯】 2024年3月 発行	
外池 昇	中條良蔵著『御陵并帝陵内歟与御沙汰之場所奉見伺書附』について
【第三十七輯】 2023年3月 発行	
外池 昇	「神武田」に造営された神武天皇陵をめぐる諸説——大澤清臣『畝傍山東北陵諸説辨』——
劉 穎	女書歌の吟唱法研究の意義——女書伝承の視点から——
【第三十六輯】 2021年3月 発行	
外池 昇	献辞
	篠川 賢 先生 略歴・著作一覧
外池 昇	陵墓の多面性について
小島 孝夫	有形民俗資料の保存と活用の課題 ——文化財保護制度運用の場の現状をめぐる——
俵木 悟	一九七〇年の「お祭り」 ——日本万国博覧会における祭りの表象——
及川 祥平	現代の産育儀礼をめぐる予備的考察
小澤 正人	安岡楚墓からみた戦国時代墓制の検討
劉 穎	史料としての女書歌
川田 牧人	ワンが一番の笑い ——奄美の余興笑芸に関する予備的考察——
上杉 富之	人種差別の「包括的定義」と「交差性」 ——国連人種差別撤廃委員会の勧告と日本政府の応答をめぐる——
【第三十五輯】 2020年3月 発行	
外池 昇	臨時陵墓調査委員会による長慶天皇陵「傳説箇所」の「調査」「審議」 ——総会・小委員会の「議事録」「速記録」より——
加藤 謙吉	大和の王権と伊勢大鹿首
【第三十四輯】 2019年3月 発行	
外池 昇	臨時陵墓調査委員会による長慶天皇陵の「調査」「審議」 ——第一回・第二回総会より——
高木 まどか	出版統制と遊女評判記 ——貞享・元禄以降の販売差止例と記述内容の変化をめぐる——
【第三十三輯】 2018年3月 発行	
川田 牧人	献辞
松崎 憲三	松崎憲三先生 略歴・著作一覧

小島 孝夫	地域社会における祭礼の展開—埼玉県北足立郡伊奈町下郷区の春祈禱を事例に—
俵木 悟	「正しい神楽」を求めて—備中神楽の内省的な伝承活動に関する考察—
篠川 賢	『粟鹿大明神元記』の「国造」
外池 昇	白野夏雲の神武天皇陵論 —真陵は畝火山全山—
劉 穎	無形文化遺産としての「女書習俗」をめぐる問題点
川田 牧人	落語と宗教くの・ようなもの
小澤 正人	巢湖漢墓の墓制
上杉 富之	「グローバル研究」の課題と展望についての覚え書き—ローカルの人やものとその働きかけに焦点を当てる—
【第三十二輯】 2017年3月 発行	
外池 昇	長慶天皇陵と「擬陵」 — 臨時陵墓調査委員会による「調査」「審議」から宮内大臣と総理大臣・枢密院議長との「会見」まで—
劉 穎	“女書習俗”的内涵及其“口頭性”考
【第三十一輯】 2016年3月 発行	
松崎 憲三	生き甲斐と幸せな死、来世への祈り —— 生命観の変化を踏まえて ——
篠川 賢	古代阿曇氏小考
外池 昇	畝傍橿原教会による「会員募集」
【第三十輯】 2014年3月 発行	
松崎 憲三	縁切習俗の現在 —板橋の縁切榎・門田稲荷・野芥縁切地藏尊—
外池 昇	『庁攬』にみる神武天皇陵御修復 —文久三年六月の「立会附切」—
【第二十九輯】 2012年3月 発行	
外池 昇	特集にあたって
田中 宣一	人と人とのかかわり—互助協同
松崎 憲三	民俗の文化資源化と生涯学習・地域活動 —千葉県立中央博物館と房総のむらを事例として—
篠川 賢	「連」のカバネと「連公」の呼称
小島 孝夫	地域社会と文化財 —無形民俗文化財の継承をめぐる—
外池 昇	臨時陵墓調査委員会による長慶天皇陵の調査 —設置から「伝説箇所」の審議まで—
岩田 一正	教科書に見られる児童像の転換 —明治期の国語読本を中心に—
【第二十八輯】 2010年3月 発行	
上杉 富之	献辞
田中 宣一	田中宣一教授 略歴・主要著作
松崎 憲三	奪衣婆信仰の地域的展開—秋田県下の事例を中心に—
小島 孝夫	埼玉県行田市における足袋産業の展開とその背景 —諸職との連携をめぐる—
松田 睦彦	大日塚をめぐる一考察 —千葉県旭市旧干潟町周辺の事例から—
篠川 賢	隅田八幡宮人物画像鏡銘小考
外池 昇	『神社新報』にみる陵墓をめぐる論調 —仁徳天皇陵発掘計画と高松塚古墳発掘—
上杉 富之	非欧米社会における生殖医療の受容過程と実践 —Culture, Medicine and Psychiatry誌2006年特集号の概要紹介から—
小田 亮	二重社会論、あるいはシステムを飼ひ慣らすこと
【第二十七輯】 2009年12月 発行	
上杉 富之	献辞
吉原 健一郎	吉原健一郎教授 略年譜・主要編著・論文目録
篠川 賢	石上神宮神宝伝承小考
外池 昇	奥野陣七と神武天皇—神武天皇陵と橿原神宮の周辺—

小沢 詠美子	三井越後屋と為替方一天明期の贈答をめぐってー
田中 宣一	「伝承」の全体像理解にむけて
松崎 憲三	ノガミ(野神)信仰再考ー奈良盆地における地域的展開ー
小田 亮	共同体と代替不可能性について ー社会の二層性についての試論ー
上杉 富之	「グローバル研究」の構築に向けて ー共振するグローバリゼーションとローカリゼーションの再対象化ー
【第二十六輯】 2006年3月 発行	
松崎 憲三	「小京都」と「小江戸」ー「うつし文化」の基礎的研究ー
篠川 賢	カバネ「連」の成立について
田中 宣一	松本平のエビス信仰(下) ー松本市商業地域のエビス社を中心にー
小島 孝夫	地域社会の変容と共同体の再構築 ー東京都御蔵島村を事例としてー
小田 亮	現代社会の「個人化」と親密性の変容 ー個の代替不可能性と共同体の行方ー
上杉 富之	多元的親子論の可能性 ー「生殖革命」時代の新たな親子関係ー
【第二十五輯】 2005年3月 発行	
田中 宣一	松本平のエビス信仰(上) ー西宮恵比寿神社の神札頒布にかかわらせてー
松崎 憲三	博物館と地域活性化 ー昭和三〇年代ブームとのかかわりからー
篠川 賢	国造の国(クニ)再考ー神崎勝氏の所論にふれてー
小田 亮	「模倣」という戦術について ーあるいはシステムの外部の語りかたー
岩田 一正	土佐の教育改革における地域教育政治の再構築
【第二十四輯】 2004年3月 発行	
松崎 憲三	ポックリ(コロリ)信仰の諸相(二)ー東海地方を事例としてー
田中 宣一	大社の祭りにみる雑神の祀り
小島 孝夫	捕鯨文化における伝統 ー千葉県安房地方の鯨食文化を事例にー
上杉 富之	人類学からみたトランスナショナリズム研究 ー研究の成立と展開及び転換ー
【第二十三輯】 2003年3月 発行	
小田 亮	文化人類学からみたカルチュラル・スタディーズ ー文化・民族誌・ポストコロニアルー
田中 宣一	烏勧請および御烏喰神事 ー祭祀の成立と雑神の祀りにかかわらせてー
松崎 憲三	ポックリ(コロリ)信仰の諸相(一)ー東海地方を事例としてー
篠川 賢	出雲国造神賀詞奏上儀礼小考
小島 孝夫	漁業の近代化と漁撈儀礼の変容 ー千葉県銚子市川口神社ウミガメ埋葬習俗を事例にー
【第二十二輯】 2001年3月 発行	
小田 亮	生活世界の植民地化に抗するために ー横断性としての「民衆的なもの」再論ー
田中 宣一	「名づけ」と「名のり」ー命名研究の一視点ー
【第二十一輯】 2000年3月 発行	
伊藤 幹治	伊藤幹治教授 経歴・著作目録
小田 亮	非共同体といいものをどのように想像するか ー「歴史主体」論争への人類学的介入ー
小島 孝夫	島に還るー民俗再考ー
田中 宣一	柳田国男の“真澄発見” ー羽柴雄輔との交流をとおしてー
松崎 憲三	墮胎(中絶)・間引きに見る生命観と倫理観 ーその民俗文化史的考察ー
我妻 建治	『花園天皇宸記』を読む(III)

篠川 賢	律令制下の紀伊国造
吉原 健一郎	江戸天王祭覚書
【第二十輯】 1999年3月 発行	
田中 宣一	枕飯と枕団子ー葬送儀礼における雑神への施食ー
松崎 憲三	鯨鯢供養の地域的展開ー捕鯨地域を中心にー
篠川 賢	伊豆国造再論
小田 亮	文化の本質主義と構築主義を越えて
【第十九集】 1996年3月 発行	
鎌田 久子	鎌田久子教授 略歴・著作目録
田中 宣一	民俗誌にとっての地域
松崎 憲三	寄り鯨の処置をめぐるー動植物の供養ー
伊藤 幹治	民俗文化論再考
小田 亮	「伝統の創出」としての門中化 ー沖縄のユタ問題ともうひとつの「想像の共同体」ー
我妻 建治	『花園天皇宸記』を読む(II)ー聖人の本旨に非ずー
篠川 賢	「知太政官事」小論
吉原 健一郎	上野山下の遊興空間(下)
【第十八輯】 1995年3月 発行	
	佐伯有清教授 経歴・著作目録
我妻 建治	『花園天皇宸記』を読むー聖人の本旨に非ずー
吉原 健一郎	上野山下の遊興空間(上)
鎌田 久子	一月十六日考ー沖縄宮古島諸地域の行事を中心にー
松崎 憲三	塚をめぐるフォークロア ー將門塚・道灌塚の分析を中心にー
伊藤 幹治	贈与交換における均衡観念
田中 宣一	近現代山村集落の運営申合わせ ー岐阜県揖斐郡徳山村塚の「年々決議」とおしてー
【第十七輯】 1994年3月 発行	
森岡 清美	森岡清美教授 経歴・著作目録
佐伯 有清	最澄伝の平安古写断簡
吉原 健一郎	寛永期江戸の土地売買
松崎 憲三	行人塚再考ー塚をめぐるフォークロア(一)ー
我妻 建治	村落社会の祭祀の変化ー宮城県白石市を中心としてー
田中 宣一	ダム建設移転に伴う世帯の変化 ー岐阜県揖斐郡旧徳山村民の場合ー
鎌田 久子	老の民俗ー女性民俗の立場からー
伊藤 幹治	日本社会におけるアニミズム的汎神論の世界
【第十六輯】 1991年1月 発行	
森岡 清美	戦犯刑死者の生と死ー決死の世代と遺書(下)ー
大島 正隆	柳田国男先生「日本民俗学講義」(下)
【第十五輯】 1990年3月 発行	
平山 敏治郎	疎林牛歩抄ー読史余録ー
大島 正隆	柳田国男先生「日本民俗学講義」(上)
【第十四輯】 1989年3月 発行	
松崎 憲三	閻魔信仰の系譜 ー日本人の地獄・極楽観についての覚書ー
吉原 健一郎	十七世紀の江戸町方史料(1) ー「日記言上之控」(元禄十三年)ー
堀 一郎	『八幡御前生記』付 姫島年中行事
【第十三輯】 1987年4月 発行	
佐伯 有清	食大倉考ー徳興里高句麗壁画古墳の墓誌に関連してー
田中 宣一	南紀漁村の年中行事ー三重県尾鷲市九鬼町の場合ー
【第十二輯】 1986年2月 発行	
佐伯 有清	慈覚大師伝の研究(二)
森岡 清美	一元的身分制の成立 ー明治維新时期における僧尼身分の解体についてー

吉原 健一郎	岡山藩士古家氏の奉公書(続)
【第十一輯】	1985年4月 発行
佐伯 有清	慈覚大師伝の研究(一)
田中 宣一	吉事盆と新盆
森岡 清美	アメリカ農村社会学史研究序説
【第十輯】	1984年12月 発行
	平山敏治郎教授 略歴・業績
平山 敏治郎	伊都女万扣
森岡 清美	死後観念の変化について—歴史人口学的試み—
我妻 建治	史料「天保四年不作動控」
佐伯 有清	但馬国造日下部氏の系譜伝承
田中 宣一	エビス神の一側面—不具神伝承について—
吉原 健一郎	岡山藩士古家氏の奉公書
野口 武徳	海上漂泊漁民の差別の構造(二)
鎌田 久子	台所と勝手—家屋名称と女性—
【第九輯】	1983年11月 発行
西山 松之助	西山松之助教授年譜・著作目録
平山 敏治郎	丹後本庄年中行事
森岡 清美	真宗興正派の成立
田中 宣一	村規約と休み日の規定
我妻 建治	『神皇正統記』における芸能
野口 武徳	家船部落の崩壊過程と社会的緊張 —とくに市場の関係と通婚関係—
登張 正實	頌
尾形 仂	山法師
中西 進	石榴
田中 日佐夫	西山先生と楊貴妃とヘンリー・ムアと
池邊 彌	西山先生からの書簡
李代 英勝	西山先生と曼珠沙華そして「行動文化」
【第八輯】(I)	1982年3月 発行
	田中克己教授 略歴・著作目録
西山 松之助	敦煌茶杓巡礼記
平山 敏治郎	越前旧岡本村の堂の講と花の堂
森岡 清美	新宗教における根本聖堂の建立
田中 宣一	屋久島のエビス神信仰
野口 武徳	沖縄糸満漁民研究の一側面
鎌田 久子	多胎児の民俗 —双子を中心に—
【第八輯】(II)	1982年3月 発行
	新城常三教授 略歴・著作目録
平山 敏治郎	堂上格富小路家成立の顛末
森岡 清美	新宗教における教団内聖地の確立過程
西山 松之助	旅についての一考察 付 種村勝久「東路のしのひ」
田中 宣一	相州大山講の御師と檀家 —江戸末期の檀廻と夏山登拝をめぐって—
野口 武徳	家船部落の社会構成 —とくに社会集団を中心として—
鎌田 久子	婚姻儀礼における関与者 —特に嫁の同行者について—
【第七輯】	1981年3月 発行
森岡 清美	政教分離体制下における宗教弾圧 —立正佼成会の「読売事件」について—
平山 敏治郎	参議西川房任卿
田中 克己	中国の婚姻—法と慣習—
西山 松之助	嘉永文化試論
【第六輯】	1980年3月 発行

宮司 正男	コミュニケーションと文化
新城 常三	近世の熊野詣
平山 敏治郎	能登島旧記覚書
鎌田 久子	大神島の祭祀 ——イイサドウの神事について——
【第五輯】 1979年3月 発行	
新城 常三	近世の四国遍路 ——時代的推移と出自地域——
鎌田 久子	葬送儀礼と女性
野口 武徳	シンガポールの近代化(一) ——HDB計画をめぐって——
【第四輯】 1978年2月 発行	
西山 松之助	江戸文化における虚像の実像
平山 敏治郎	ある道中覚書について
【第三輯】 1977年2月 発行	
新城 常三	中世瀬戸内島嶼民衆の経済生活 ——東寺領伊予弓削島荘——
田中 克己	「中国の草木と人間」草論(続) ——詩経に見える草木(一)——
築島 謙三	日本観をめぐるハーンの初期と晩年 ——文化比較の条件を求めて——
鎌田 久子	日本巫女史の一節(その二) ——年中行事の司祭者として——
【第二輯】 1975年2月 発行	
森岡 清美	神社をめぐる住民感情と官僚的合理主義
築島 謙三	英国人の見た日本人 ——大正・昭和前期について——
田中 克己	「中国の草木と人間」草論
【第一輯】 1973年3月 発行	
大藤 時彦	産の忌
築島 謙三	英国人の見た日本人 ——明治時代について——
新城 常三	日本史上に見られる海神への供犠——試論 ——海難克服手段の人身、重宝、毛髪の海中投下に就て——